

## 平成 28 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

### 1. 学校概要

学校名 大阪府立春日丘高等学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☒ 高等学校  
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育  
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ( )

所在地 〒569-0818  
大阪府茨木市春日 2-1-2

E-mail koho@kasugaoka.osaka-c.ed.jp

Website http://www.osaka-c.ed.jp/kasugaoka/zen/

児童生徒数 男子 429 名 女子 528 名 合計 957 名  
 児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- ☒ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☒ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☒ エネルギー
- ☒ 防災
- ☒ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☐ そのほか ( )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 1. 本校における ESD 活動の位置づけ

(1) 各学年での主な活動

##### 【第1学年】

年間を通じて週1時間、総合的な学習の時間において、ESDを中心とした学習活動を実施。人権研修では、国際交流を念頭に、異文化理解を中心にシリア問題について現地取材したジャーナリストの講演を行った。また、修学旅行先である沖縄・八重山諸島の歴史・文化・平和などについて、グループに分けて、テーマを決めて調べ発表する活動を行った。英語科の授業においては、調べた事を英語で報告する活動を行った。家庭科では、フェア・トレードの授業で、実際にフェア・トレードの食品を購入し、調理・試食することで生活の中での学びを行った。

##### 【第2学年】

社会と情報の時間（週2時間）を利用して、NIEとESDを意識した学習活動を実施した。修学旅行先である沖縄・八重山諸島に関して、各クラスを8グループに分けて、新聞を作るコンテストを実施し、修学旅行後に報告をかねた学校ホームページ作成コンテストを実施した。また、年度末には、政治・福祉・歴史・国際・文化など時事問題を新聞からテーマを決定し、ニュース解説番組を作る活動を行った。英語科の授業では、各自が選んだテーマに沿って作成した英文を、冊子にした。

(2) 学校全体での主な活動

##### 【ESDパスポート事業】

ESDパスポートを生徒手帳に組み込み、市内清掃・東北支援活動・国際交流・ボランティア活動など、生徒の個々のESD活動を意識づける取り組みを始めた。今年度は特に街頭清掃ボランティア活動や、エコキャップ運動などと連携させた。

##### 【国際交流・異文化理解・ボランティア活動】

韓国城南市で行われた、日韓「小さな外交官プロジェクト」に生徒2名派遣し、文化交流・ホームステイ・歴史学習を行った。また、日中韓ユネスコ協会主催の青少年文化交流に生徒1名を派遣し、大阪チームとして大気汚染に関する提言を行った。全日本模擬国連大会へ生徒2名を派遣した。

姉妹校である米国ミネソタ州 サウスウエスト高校に生徒12名、教員2名が訪問し、ホームステイ・授業など、共に学ぶ活動を行った。また、同じくサウスウエスト高校からも生徒・教員を受け入れて、本校生徒が京都観光の案内やホームステイ・授業をともに受けることで、交流を深めた。

12月に大阪で開催したワンワールドフェスティバルにおいて、大阪ユネスコ協会主催 ESD パスポート報告および気仙沼ボランティア活動報告・文化交流企画等の報告を行った。

##### 【東北支援活動】

・震災後4年続けて市内の他のユネスコスクールと共同して、東北被災地（気仙沼）を訪問し、復興ボランティアおよび、現地のユネスコスクールである気仙沼高校と交流を実施。2016年度は生徒8名、教員2名を派遣した。

・文化祭にて、東北被災地の現状や大阪における防災・減災に関するパネル展示  
・野球部を中心に、宮城県の高校生を大阪に招待する活動を、他のユネスコスクール等4校および地元自治体と企画・実施。ホームステイと交流戦等を行う中で、被災地復興だけでなく、地元大阪での東北支援活動を継続する契機としている。

#### 【ユネスコ協会活動への参加】

本校では、ユネスコ部が存在しないため、企画ごとに募集を行っている。

- ・大阪ユネスコ協会・日本ユネスコ協会主催の、高校生の主張コンクールに生徒1名が出場（大阪大会最優秀賞・中央大会優秀賞受賞）。日本ユネスコ協会主催の作文コンクールに1名が参加。
- ・日中韓 青少年文化交流企画に生徒1名が参加。
- ・ワンワールドフェスティバルにおける大阪ユネスコ協会主催のESD活動報告会の報告だけでなく、企画・運営に生徒6名が携わった。

#### 【その他】

中学生に理科に親しみをもってもらおうと学区内の中学生に案内をし、高校生が主体となって企画・運営しているチャレンジ理科教室（中学生84名参加）や、つくばの高エネルギー加速器研究所・JAXA・筑波大と連携して、つくばへ生徒11名教員2名を派遣し、研修や見学を行った。

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- ☒ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☒ その他（夏期休業中・土曜・日曜）

# 東北プロジェクトとは...？

このプロジェクトは、北摂つばさ高校・松原高校・住吉高校・コリア国際高等学校・春日丘高校とが共同実施しており、第5回となる今年は120人を越える生徒が参加しました。

春日丘高校からは、3年の大竹成実、2年の雑賀亜以子、村山朝香、松浦未佳、1年の内田遥香、田嶋巳紗、古志二千華、油谷凜の8人が参加しました。



## 東北プロジェクト2016の日程

6/4 事前学習① 大阪市立阿倍野防災センター

7/8 事前学習② 毎日新聞大阪本社訪問

7/8・11 阪急茨木市駅前募金

7/15 大阪出発

7/16 午前：気仙沼到着

午前・午後：フェリーで大島にわたり復興ボランティア活動

宿泊：八瀬森の学校にて民泊

7/17 午前：陸前高田 視察

午後：森の復興ボランティア

宿泊：八瀬森の学校にて民泊

7/18 午前：気仙沼高校と交流

午後：大阪に向けて出発

7/19 大阪到着



## 募金活動

阪急茨木市駅前の募金には、様々な方にご協力いただきました。

雨の中立ち止まってくださる方、笑顔で声をかけてくださる方、

自転車から降りて募金してくださる方もいて、

大人から小さい子供まで協力していただきました。

学校内での募金では、生徒に限らず先生方も協力していただきました。

その結果、多額の募金が集まりました。



## おまけ

東北プロジェクトは、6月23日に軽音楽部と協力し熊本地震チャリティーライブを行いました。

春高の中庭でのライブはたくさんの生徒などの協力もあり、成功することができました。

その結果、11,383円の募金が集まりました。





# 伝える 寄り添うために。未来に繋げるために。

毎日新聞大阪本社にて事前研修

あ の 日



手塚記者が撮影

2011/03/11 その時、手塚記者は仙台にいた。高校野球の取材中に被災。ヘリが仙台空港を離陸した直後、津波が襲った。身震いする程の恐怖を感じながらも伝えるためにシャッターを押し続けた。このとき、屋根の上に避難している人が見えた。安否が気になっていた手塚記者は1ヵ月後、その人を捜すため再び仙台を訪れた。その人は無事でボランティアをしていた。

手塚記者は「被災地の人が苦労している部分は現場に足を運ばないと見えない。多くの人に伝えることでその隔てを埋めたい。」と話す。

阪神取材、熊本取材後方支援を経験された小栗記者にお話を伺いました。

報道で大切なことは

- ①人と話す・聴く・伝える。
- ②怒り・悲しみ・喜びを感じる。
- ③継続して報道する。

人の命が失われた震災や事件を風化させてはいけない。

毎年震災関連記事を載せるのは、「忘れないで」というメッセージ



ホテルは営業していても自衛隊や警察優先。報道を受け入れるのは民間。救援物資に手をつけることはゆるされず、激しい空腹と闘いながらの取材でおにぎりを食べさせてもらい、人の温かさに感動したことも。

現地の協力なくして取材は成し得ない  
協力してもらうだけの何かを残す

そんな想いで取材している。

東北での活動では、少しでも被災された方の気持ちに近づきたいという想いをもち、学んだことを伝える責任を意識して活動しました。これから、震災についてのみでなく東北の魅力についても、広く発信していきたいです。

2年 雑賀 亜以子



# 大阪市立阿倍野防災センター 災害体験

私たちは東北プロジェクトの事前学習の一環として、大阪市立阿倍野防災センターで地震や火災などの災害体験をしてきました。4通りある災害体験のコースのうち、私たちは一番長い100分コースを選択したので、すべての体験を行うことができました。

## 1 バーチャル地震コーナー

地震に関するニュースを見ている最中に巨大地震が起きたという設定です。スクリーンの大画面映像と床の振動装置で大地震が発生した時の状況を座ったままで体験しました。

## 2 火災発生防止コーナー

このコーナーでは震発生直後の家の内部の様子が再現されていました。ガスコンロの火やブレーカーなど放っておくと火災発生の原因となるものを見つけ出して二次災害を未然に防止することを学びました。

## 3 煙中コーナー

煙が発生してしまった廊下の中を、できるだけ煙を吸わないように避難しました。姿勢を低くしながらすばやく避難することが重要です。この体験は録画されているので、体験の終盤に自分の避難の様子を客観的に見ることができます。

## 4 初期消火コーナー

食堂の厨房で発生した小さな火災を消火器で消す体験をしました。説明された通りに行わないと、消火失敗となるのですが、全員が成功しました。



## 5 119番通報コーナー

公衆電話や携帯電話を使って119番通報を行う体験をしました。また、通報の際の被害状況の説明を間違えたり、早口になったりしてやり直しになっている人も少なくありませんでした。

## 6 消火コーナー

2階建ての家屋の火災を、可搬式ポンプで消火する体験をしました。その際、可搬式ポンプの使用の手順を学ぶことができました。



## 7 救出コーナー

倒壊した家の中で家具の下敷きになった人をジャッキを使用して救出する体験をしました。また、他の救助資材の使用方も学びました。



## 8 応急救護コーナー

止血や骨折の固定などの手当てを身の回りのもので行いました。応急処置道具を、ネクタイや新聞紙、ビニール袋で代用することができると学びました。



## 9 震度7地震体験コーナー

起震装置を用いたこのコーナーでは、東日本大震災や阪神・淡路大震災級の揺れを体験することができました。事故防止のため120cm未満の人は体験できませんが、とてもリアルな揺れを味わえました。

## 10 マルチメディア学習コーナー

防災に関する情報を得ることができるコーナーです。地震や火災、風水害などの防災に関するさまざまな展示物がありました。



この体験を通じて、災害発生時には自分たちで手当てはもちろん、消火や救助も行わねばいなくなる可能性があるということを思い知らされました。私も、災害を他人事だと思えるのではなく、日頃から可搬式ポンプやジャッキなどの設置場所を確認したり、非常用持ち出し袋を準備するなど、防災意識を高めていきたいです。

製作者 松浦未佳



## <大島について>

現地に着いてはじめて活動した場所が大島でした。

とても自然が豊かな場所でしたが、震災のときには、重油が流れ出して起こった気仙沼湾の火災が海を渡って大島にも燃え移りました。鎮火まで4日間もかかる火事の結果、もともと盛んであった牡蠣の養殖のいかだや家を一度に失いました。



## <主な作業内容>

### ・雑草抜き

震災によって失った家や作業場は建て直されていましたが、斜面の草刈には手が出せていないということで、お手伝いしました。津波によって流されてきた浮きなどが残っていて、津波が迫ってくる怖さを感じました。



↑↓ 頑張りました！

### ・牡蠣の養殖場の見学

草抜きの合間に、牡蠣の養殖いかだを見せていただきました。自分の仕事に誇りをもたれていて、自分から行動することを大切にされていたのが印象的でした。ボランティア活動を行うときに、心に留めておきたいと、感じました。



# 現地活動 ～気仙沼 大島～

昨年に比べ、養殖いかだの数も増え、復興が進んでいるように感じました。

しかし、外から見えにくい課題があることを知りました。

震災後、多くの人が地元を離れて、別の場所に住むようになりました。それにより、ボランティアではかかわることの少ない、日常の部分がおろそかになってしまうのだそうです。“家が建ったから、仕事が再開できたから、といって、復興ではない”ということを学びました。

一人ひとつずつ蒸し牡蠣を  
いただきました！

タイタニック風？





# 貴重な植物を守る運動

1年 2組 6番  
内田 遥香

## ・気仙沼での植樹ボランティア

活動二日目の17日、私たちは気仙沼・波路上原で、海辺の森をつくろう会の植樹活動を手伝うボランティアに参加しました。作業は大きく分けて、

- ①森作りのための苗植え
- ②土壌からの石の除去
- ③草刈り

の3つです。これらの作業にはそれぞれ大切な目的があります。

まず①は、畑を潮風などから守るためです。今回植えたレッドロビン、潮風に強く、高く成長します。今後来るかもしれない震災のための、防波堤の役割も担っています。一人一株ずつ、丁寧に植えました。

また②は、堤防建設にあたって住処の浜辺をなくしてしまう、ハマナデシコなどの希少な植物の保護のために、移植地を作る目的でした。大きなごろんとした石から小石まで、みんなで協力して取り除きました。

③で草刈りをしたのは、森作りのために若木をたくさん植えてある土地だったのですが、セイタカアワダチソウなどの生命力の強い外来種の雑草がそれらの成長を妨げていました。なので、外来植物を重点的に、雑草をひたすら取り除きました。腰を曲げっぱなしのハードな作業でしたが、すっきりした野原を見たときは達成感がありました。

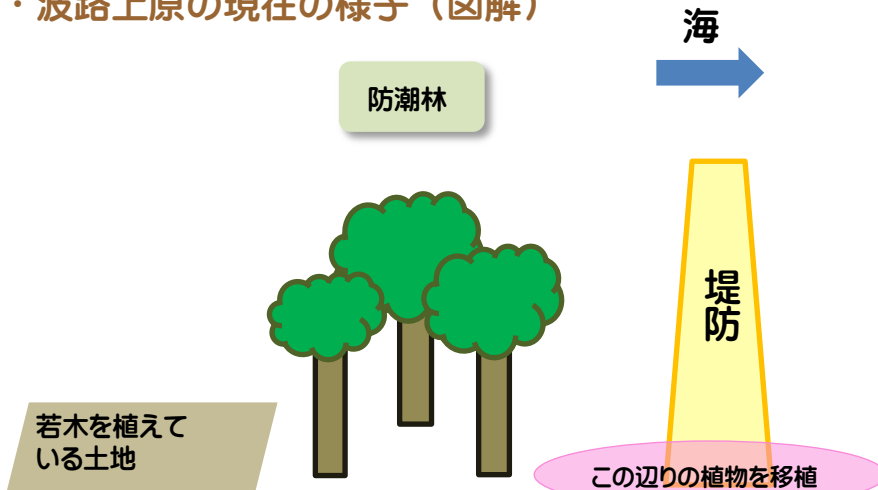


▲潮風に強いレッドロビンの木の苗植え



▲草花の移植のため、土壌から石を除去

## ・波路上原の現在の様子（図解）



▲広大な土地を延々と草刈り

## ・感想

今回の活動で私が最初に感じたのは、津波が奪っていったのは人々の命だけではないということです。自然豊かだった気仙沼は、そのほとんどを波にさらわれ、今も更地の場所が多く残っています。今回の森作りは、たんに防災を目的にしているのではなく、もとの自然豊かな気仙沼を取り戻す目的でもありました。「復興は、ただ町並みを元の状態に戻すだけではなく、人々の生活を元通りにしてこそ達成される」。これが、今回の東北プロジェクトで私が学べたことです。今回植えた苗や、移植されるであろう希少な植物、たくさんの若木が、無事に成長し東北を守る力になるころには、東北はさらに活性化されていると思います。しかし、地元の人々だけでは、完全な復興は難しいのも事実です。今回行った少しハードな作業などは、お年寄りだけではかなりきついと思います。東北は若者不足でも悩んでいます。私たち若い世代の協力が、今まさに必要とされていると思います。



▲全員で集合写真



▲海辺の森をつくろう会の皆さん  
ありがとうございました！



# 現地活動＊陸前高田

岩手県南部の太平洋側に位置する陸前高田は、日本百景にも選ばれている7万本の「高田松原」があったり、「道の駅」があったりなど、もともとはリゾート地として栄えていた町です。

しかし、その高田松原は津波が押し寄せてから、わずか6分で「奇跡の1本松」を残して全て流されてしまいました。



地震発生から約45分後に陸前高田に押し寄せた津波は最大17.6m、建物の四階ほどに及びます。その津波により途中で途切れた橋や線路。もと「道の駅」の周りに家などの建物は無く、車の走る音だけが聞こえます。

全体が津波に飲み込まれてしまった街を見たとき言葉を失いました。

今回、津波の被害についてばかり書きましたが、5年前と何も変わらないわけではありません。

東北プロジェクトを通して、「がれきの山」は1度

も目にしませんでした。震災当時テレビでみた防災庁舎、それよりも高く作られた盛り土。震災を伝えるための資料館や、高田松原があった場所に作られた防波堤など、様々な復興が進んでいました。

当時のことをお話ししてくださった方が、これから必要なものは「心の防波堤」だとおっしゃいました。地震対策・津波対策も重要ですが、大切なのは“どう動くか”正しい判断ができるか、だと思います。

初めての東北でしたが、たくさんの物に刺激を受けました。少しでも多くの人に地震への関心を持ってほしいと感じました。



## ★意見交流



春日丘、他校の大阪の生徒、気仙沼高校の生徒とで交流をしました。複数のグループに分かれて、「防災について」「私が総理大臣になったら」というテーマで意見を交流しポスターを作りました。他校の生徒の様々な意見を聞くことで新しい発見があり、貴重な経験となりました。次々と意見を出し合うことができ、テーマについて深く考えることができました。

## ★発表

意見交流をした後、各テーマの代表チームが発表をしました。「防災について」では、実際に震災を経験した気仙沼高校生徒の皆さんの話が強く印象に残っています。震災が来たときに、適切な対処がとれるよう準備しておくことが大切だと改めて感じました。共感することや私にはなかった考え方に気がつくことができました。



# 気仙沼高校との交流



活動最終日、  
気仙沼高校に訪れ、  
交流会をしました。

気仙沼高校に着くと、生徒の皆さんが温かく迎えてくれました。その温かさのおかげで、初対面にもかかわらず交流中も話やすく、楽しいひとときを過ごすことができました。意見交流の他にも心理ゲームや人間知恵の輪などもしました。とても盛り上がり、気仙沼高校の生徒や他校の大阪の生徒の皆さんとも仲良くなることができました。帰るときにも、生徒の皆さんが精一杯手を振って見送ってくれました。震災にあった気仙沼高校の生徒の皆さんは私たちと同じ高校生なのに、しっかりと震災と向き合っていて、強さを感じました。実際に同世代の被災地の生徒と交流することで親しみを持つことができ、被災地の人々の役に立ちたいという思いがより一層強くなりました。



# 東北のいいところ

## 1. 人

ボランティアの間私たちを泊めてくださった家族の方との写真です。家族の方たちは震災当時のことを色々話してくれました。実際に被害を受けた人からの話はとても重くて、真実味がありました。現地で出会った人はどの人も明るく接してくれ、東北を元どおりにしようという強い思いを持っているように感じました。現地では人の心の大きさに気づくとともに、家の大きさに驚きました。



プロジェクトの一環として訪れた気仙沼高校でであった高校生もみんな明るくておもしろい人達でした。はじめは仲良くなれるか少し不安でしたが、むこうの高校生たちが私たちのためにオリエンテーションのようなものをおこなってくれたので、楽しく過ごすことができました。年上の人たちと触れ合うことも必要ですが、同じ年齢の高校生たちとも話すことは重要だと感じました。

## 2. 食べ物

左の牡蠣はボランティア先でいただいたものです。大阪で売られている牡蠣よりも身が大きくてとてもおいしかったです。牡蠣のほかにも、現地で食べた食べ物はどれもおいしかったし、民泊先のお母さんはとても料理が上手でした。東北の人たちはみんな料理がうまいのかなと思いました。おいしすぎて、私は普段の二倍の量を食べてしまいました。



## 3. 自然

大島へ渡るフェリーに乗ると、たくさんのカモメたちと触れ合うことができました。河童せんべいを上げると至近距離でカモメを見ることができました。河童せんべいを手であげたり、写真のように手であげたり、さらには口であげたりする人もいました。また、東北は緑がとても多かったです。東北はただでさえも涼しいのに、木のおかげでさらに涼しく感じました。大阪に帰ってくると、東北との気温の違いに驚きました。



初めて訪れた東北でしたが、そこにはたくさんの魅力がありました。実際にいかないと気づかないこともあると思います。ぜひ、一度東北に訪れてみてはどうでしょうか。